



## 発刊にあたって

仙台南地区租税教育推進協議会長  
岩沼市教育委員会  
教育長 百井 崇

本年度における「仙台南地区租税教育推進協議会」の主な事業が、過日岩沼市中央公民館にて行われた「租税教育に関する研究発表会」を最後に、滞りなく終了しました。関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

さて、東日本大震災から8年を迎え、当協議会の会員である2市2町の復興事業もほぼ仕上げの段階に入っています。国内においては、2年後に復興五輪が開催されるなど、震災以前以上の動きが出ております。これも全て、しっかりした社会基盤のなせる業であり、税金の裏付けがあるからできることです。税に対する国民の理解がそのことを可能としております。震災復興から新たな段階へ進むためにも、税に対する正しい理解が必要になります。そのような意味からも、学校の租税教育における本協議会の果たす役割は非常に大きいものがあります。

学校では、児童生徒が社会に積極的に参画できるように、政治的教養を育む教育、社会参画に関する教育、そして租税に関する教育など、多くの取組をしております。

当協議会は、租税教育を通じて、税の持つ意義について児童生徒に十分な理解を促す努力を続けてまいりました。この実践の成果を、11月14日に岩沼市中央公民館において、名取市立第一中学校、岩沼市立玉浦中学校、亘理町立荒浜小学校、山元町立山下第一小学校の4校が発表し、それぞれの学校の取組を学び合うことができました。

4校の実践発表は、児童生徒が租税の意義や役割を正しく理解するのにふさわしいテーマでした。このような取組を通して、各校の児童生徒は租税の意義の理解を深めたものと思います。また、この取組は、国の主体は自分たちであるという自覚を育てるのに有意義な機会となっております。発表された4校の先生方に感謝申し上げます。

本書には、この4校の実践例が要約した形で掲載されております。是非、ご覧いただき、それぞれの学校における租税教育推進の一助にしていいただければ幸いです。

最後になりますが、これまで発刊に向けご尽力いただきました仙台南税務署の皆様のご配慮、さらには現場の先生方や税務関係者の方々のご支援に心から感謝申し上げます、挨拶いたします。

平成31年3月